

平成30年2月6日(火)

「海苔の日」に美味しい海苔を子どもたちへ

2月6日の「海苔の日」にちなみ、鳥羽地区黒のり養殖研究協議会が鳥羽市内の小中学校、幼稚園、保育所の給食に黒海苔八千枚を寄贈していただきました。



鳥羽地区黒のり養殖研究協議会は、鳥羽磯部漁業協同組合5支所（答志、和具、桃取、菅島、安楽島）の生産者36名で構成しており、養殖漁業の発展や生産技術の向上を目指した活動により、本年度の生産は県内トップで、連続して10回目の寄贈となります。

鳥羽磯部漁協の永富組合長（写真右から3人目）は「生産方法に成功しましたが、これからはこれを機に後継者のことも考えたい。今年度の生産は、昨年並みに出来ましたが、自然に左右されるものでありますので、人為的な影響を少しでもなくしてきれいな水を流してほしい。環境を大事にして」と語り、生産者の代表で同協議会の松村隆生会長（写真中央）は「地元で育った海苔を地元で育った子供たちに食べていただきたいと始め、鳥羽のきれいな海で育った海苔を全国に広めたい」と語っていただきました。

中村市長（写真右から2人目）からは「地元の子どもたちに海苔の文化、それに係わる人たちの思いを食べてもらえる。皆さんの思いの詰まった海苔をセールスしていきたい」とお礼の言葉を述べました。

いただいた海苔は、市内の小中学校、幼稚園、保育所（全23施設）の子どもたちに給食等で食べていただきます。